

インタビュー

クロスボーダー M&Aの実際

(話し手) 日本たばこ産業 代表取締役副社長 新 貝 康 司

(聞き手) 早稲田大学大学院教授 鈴木 一 功

<証券アナリストジャーナル編集委員会委員 CMA>

日本たばこ産業（JT）は、1985年に日本専売公社から事業を継承して設立された。その後、国内たばこ消費の伸び悩み予想を背景に1992年の英国マンチェスタータバコの買収を嚆矢に、99年の米国RJRナビスコ社からの米国外のたばこ事業（RJRI）の取得、2007年の英国ギャラハー社の買収と、海外展開を推進してきた。

こうしたクロスボーダー M&Aを中心となって進めてこられたお一人の日本たばこ産業 代表取締役副社長 新貝康司氏にお話を伺った（2012年12月19日実施）。

1. 同社の海外展開の概要について

鈴木 日本たばこ産業（JT）の2013年3月期の中間決算資料等によると、セグメント別の売り上げは、国内たばこ事業が32%、海外たばこ事業が47%、EBITDAでは、国内たばこ事業が45%、海外たばこ事業が55%となっており、海外の方が大きくなっていると理解している。海外の地域別の売り上げについて教えていただけないか。

新貝 海外たばこ事業を担当しているグループ会社JTI（Japan Tobacco International）の2011年12月決算では、地域別売上高の割合はCIS+（旧ソ連邦）34%、南西ヨーロッパ19%、北中ヨーロッパ17%、その他30%であった。CIS+（旧ソ連邦）



鈴木一功 氏

は好調で、ロシア、コーカサス、中央アジアの国などが伸びている。

鈴木 現在の海外たばこ事業において、地域ごとの生産、経営管理といったオペレーションや経営

新貝 康司（しんが い やすし）

1980年京都大学大学院工学研究科修士課程修了、同年日本専売公社入社。89年渡米、96年JT本社に戻り経営企画業務を担当、その後、財務企画部長、取締役執行役員財務責任者、JTI Executive Vice President & Deputy CEOを経て、11年6月より現職。この間、英国ギャラハー社の買収と統合を指揮。